

氏名	山 本 泰 宏
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博甲第 号
学位授与の日付	平成16年9月30日
学位授与の要件	医学研究科内科系放射線医学専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	Differentiation of Thyroid Nodules Using Tl-201 Scintigraphy Quantitative Analysis and Fine-Needle Aspiration Biopsy (Tl-201シンチグラフィの定量的評価とFNAとの併用による 結節性甲状腺腫における診断能の検討)
論文審査委員	教授 槇野 博史 教授 西崎 和則 助教授 宮崎 正博

学位論文内容の要旨

甲状腺腫の良悪性の診断について、穿刺吸引細胞診(FNA)とTl-201シンチグラフィ(以下Tl-201)の定量的評価の併用における有用性を検討した。対象は手術にて組織診断が確定した甲状腺腫を有する131例、濾胞性病変83例(良性:58、悪性:25)、非濾胞性病変48例(良性:8、悪性:40)。FNAは病理診断により濾胞/非濾胞性病変、class I-Vに分類された。Tl-201は早期像(10分)と後期像(120分)を撮像し、定量的にT/N比(腫瘍部のカウント/対側正常部のカウント)を算出した。濾胞性病変と非濾胞性病変ごとのFNAとTl-201(早期像、後期像)のT/N比の診断能をそれぞれROC曲線下面積(Az)を用いて比較し、カットオフ値を求め、その併用について検討した。濾胞性病変ではTl-201のAz(早期像:0.861、後期像:0.838)はFNAのAz(0.582)に比べて大きかった。診断にはTl-201、早期像が有用で、そのカットオフ値を1.370にした場合、感度は76%、特異度は82.7%であった。非濾胞性病変ではFNAのAz(0.902)がTl-201(早期像:0.714、後期像:0.792)より大きかった。FNAがClass I、IIの場合はTl-201後期像の併用が有用で、そのカットオフ値を1.070にした場合、感度は90.0%、特異度は87.5%であった。甲状腺腫の良悪性の診断について濾胞性病変ではすべての症例で、非濾胞性病変ではFNAがClass I、IIの場合はTl-201の定量的評価の併用が有用と考えられた。

論文審査結果の要旨

本研究は、甲状腺腫の良悪性の診断について、穿刺吸引細胞診(FNA)とTl-201シンチグラフィ(Tl-201)の定量的評価の併用における有用性を検討したものであるが、濾胞性病変ではTl-201が良悪性の鑑別に有用で、非濾胞性病変ではFNAが有用であった。Decision Treeに従って診断した場合、濾胞性病変では感度は76%、特異度は82.7%、非濾胞性病変では感度は90.0%、特異度は87.5%で、全体の正診率は84.0%と良好な結果がえられた。FNAとTl-201の併用は甲状腺腫の良悪性の診断に有用であった。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。